

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第196号
4
19. .22

表紙

・住み慣れた街で、いつまでも自分らしく暮らしていくために

P3

・活動報告 遺伝子組み換え反対運動推進月間 生産者交流会 米澤製油(株)／新生酪農(株)／(株)丸本
・職員紹介 ・サークル紹介

P2

・これからも食べ続けたい「ウインナークラブ」の豚肉

P4

・エスコープ大阪第6次中期計画
・エッコロ給付状況報告
・子育てひろば案内
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

住み慣れた街で、いつまでも自分らしく暮らしていくために

日本の65歳以上の高齢者人口は、1970年に総人口の7%を超え、1994年には14%を超え、2016年には27.3%となっています。その後も高齢化率は上昇を続け、2036年には33.3%となり3人に1人が高齢者になると予測されています。エスコープ大阪も設立から49年が経ち、介護を受ける組合員が増えています。エスコープ大阪の福祉事業「エスコープ大阪サポートセンター」(以下、SOS)の利用者の約3割は組合員とその家族、元組合員です。そこで、SOS泉北(堺市南区)の主任ケアマネジャーである前田久美さんに、現在の高齢者の生活事情やエスコープ大阪の福祉(介護)事業について伺いました。

(聞き手:福祉担当常務理事 吉田 正美)



前田久美さん

たすけあい事業推進フロア
エスコープ大阪サポートセンター泉北
居宅介護支援事業管理者
(主任ケアマネジャー)

今の高齢者の暮らしと私たちの福祉事業

吉田 ケアマネジャーとして多くの高齢者の生活を支援されていますが、高齢者が生活していく上で、どんなことが課題ですか。

前田 買い物で困っている人が多いためです。人口が減り、家から歩いて行けるスーパーや商店が少なくなってきました。車を運転できれば、離れたところにあるショッピングモールに行くことができますが、年を重ねるにつれ運転をすることが難しくなりま

す。ヘルパーや家族にインスタント食品やレトルト食品などをまとめて買ってきてもらっている人も多いようです。特に気になるのは独居の男性です。若い頃は仕事人間で近所付き合いがなく、退職後に地域のボランティア活動や自治会、老人会など地域コミュニティに入ることができなくて、家に閉じこもってしまうこともあります。家事をしたことがない方も多く、買い物に行くことも少なく、きちんと食事を摂っているか、体

調は崩していないかなどとても心配です。

また、介護保険制度という言葉は知っていても正しい内容を知らない人が多いです。いまだにヘルパーをお手伝いさんと思っている人もいたり、改定の度に制度内容が複雑になっているので正しい情報が伝わっていない

かつたり、「いざ」という時に誰に頼んだらいいかわからないという

吉田 SOSではどのような対応をしていますか。

前田 今は、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される、地域包括ケアシステムをすすめています。行政サービスのみならず、NPO法人、ボランティア、民間企業などの多様な事業体が連携し、重層的に高齢者の自立生活を支えていこうというものです。そんな中で、ケアマネジャーも地域の情報を収集し、適切な情報を利用者に伝えたり、団体につないでいきます。また、医療や介護の現場の人だけでなく、その利用者の周りの人、家族や近所の人とも連携を取っています。承諾を得た上で、利用者のご近所に挨拶に行つたこともあります。でも、それは高齢者自身

ができることを増やしていくことも併せて考えていかなければいけません。利用者がどう生きたいかを考え、それを実現するた

めに寄り添った支援を私たちはめざしています。ケアプランを立てる時は、どうすれば利用者にとって「やろう」という気持ちを持つてもらえるかを考えています。

みんなでエスコープ大阪の福祉政策をすすめよう

吉田 これまでエスコープ大阪では、「住み慣れた街でくらし続けたい」という思いを形にするために、いろいろな福祉の取り組みをすすめてきました。エスコープ大阪の福祉政策の基本である、参加型福祉の仕組みづくりをすす

めています。今年度は、エスコープ大阪版の「地域包括ケアシステム」の構築に向けて調査し、方針を検討します。

前田 今、堺市でもいろいろな所で子どもから高齢者まで、地域の人が集まることができるところづくりがすすめられています。多世代の人がつながることは大事なことです。

吉田 介護を仕事にしている人がけが頑張るのではなく、地域にあるインフォーマルサービスが連携することで包括ケアシステムが成り立ちます。エスコープ大阪の中でも福祉事業だけでなく、共同購入などと連携した取り組みや組合員が参加して自治体の「介護予防・日常生活支援総合事業」に関わることができないか

方針を検討していきます。

前田 SOSケアマネジャーたちも、エスコープ大阪の店舗(城山台D.O.)の店頭で介護相談をするなど、エスコープ大阪の福祉について発信していきます。事業的にヘルパー不足が大きな課題となっているので発信と一緒に働ける人も探していきたいです。

吉田 SOSのケアマネジャーはその利用者だけでなく、その周辺の人や地域資源なども含めて利用者を見てサービスを提供しています。事業所の都合を優先してサービスを提供する事業所もあるそうですが、エスコープ大阪では利用者の気持ちに寄り添った支援をしています。エスコープ大阪の福祉政策を組合員と職員みんなですすめていきます。

※1 地域包括ケアシステム:2014年に改正された介護保険制度の主な内容のひとつ。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を充実すること。

※2 インフォーマルサービス:介護保険制度外のサービスや支援。家族、近隣、友人、民生委員、ボランティア、非営利団体などの制度に基づかない援助など。



SOS泉北 ケアマネジャー(後列左から坪井さん、前田さん、前列左から川西さん、花岡さん)



これからでも食べ続けたい

「ウインナークラブ」の豚肉

組合員に「お気に入り消費材は？」「おすすめしたい消費材は？」と尋ねると必ず上位に挙げられるのが「ウインナークラブ」の豚肉。エスコープ大阪では組合員の望む安心・安全な豚肉を消費し続けるために「一頭買い」をすすめています。これまでの豚肉の取り組みを振り返り、「一頭買い」という消費のしかたについてお伝えします。

組合員の思いと行動が結実した 私たちの豚肉

市場の豚肉に不安を持つ組合員が「育ち盛りの子どもたちや家族に安心して食べさせられる安全な豚肉が一般の市場で手に入らないのであれば自分たちで作り出そう」と、40年前にスタートした私たちの豚肉の活動。1979年に初めておこなった豚の解体学習会を皮切りに豚枝肉(半頭分の豚肉)を解体しながら養豚の問題点を提起。子どもたちに安心して食べさせられる豚肉を求めて話し合いを重ねました。1980年には月2回25頭での定期的な供給がはじまりました。自分たちの望む豚肉の実現のために、豚一頭丸ごとを、どの部位も余すことなく食べる約束をし、月100頭の消費を目標に取り組みしました。

取り組みをすすめる中で巡り合ったのが徳島県の「南石井養豚センター」です。「養豚と精肉、加工、流通のすべてが明確な豚肉を食べたい」という組合員の思いと、「品種や飼料、飼い方にこだわった、良質な豚肉を食卓へ届けたい」という養豚家の思いが重なって私たちの豚肉が誕生しました。組合員は豚一頭丸ごとを、どの部位も余すことなく食べる「一頭買い」での利用拡大をすすめる

1988年には、エスコープ大阪と石井養豚センターが共同出資し、自前の豚解体・精肉加工場「ウインナークラブ」を設立することができました。



組合員への新工場(現・本社工場)の完成お披露目(1999年)

部位バランスを考えて食べることは、これから先を考えて食べること

エスコープ大阪が取り組む「一頭買い」は、豚肉を部位ごとに仕入れるのではなく、豚一頭丸ごとを仕入れて消費する仕組みです。泉北生協(エスコープ大阪の前身)の頃から、私たちの望む健康で安全な豚を育ててもらい、その豚を余すことなく消費するという仕組みを作ってきました。

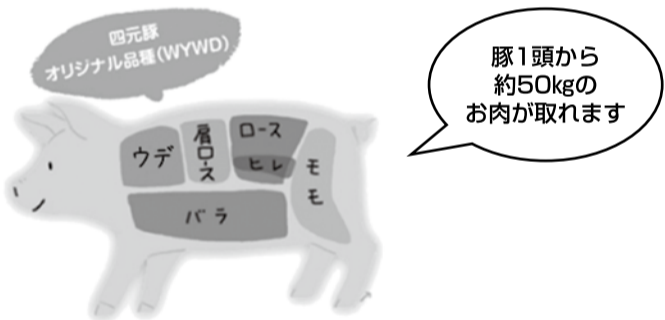
豚一頭からはロース、バラ、ヒレ、モモなどさまざまな部位が取れます。「好きな部位を好きなだけ」という消費のしかたでは、足りない部位や余る部位が発生し、消費のバランスが崩れると生産者にも負担をかけることとなります。消費が偏らないように部位バランスを考え、「一頭買い」で消費することは、私たちのいのちの食べ方であり、望むおいしくて安全な豚肉の持続的な生産につながり、

「食の自給」にもつなげる食べ方です。

豚肉の取り組みに参加しよう！
『豚肉料理 百一選 スライス編』で豚肉のいろいろな部位を味わい、料理を楽しんで♪

これまでも「一頭買い」をすすめるために、豚肉の解体学習会などをおこなってきました。ブロッケン肉が使い慣れない組合員が増える中で活躍したのが、1992年に組合員が作った『豚肉料理 百一選 保存版』。カタログに冷凍スライス肉が登場してからも、私たちの豚肉を伝え利用をすすめていくために欠かせないものでした。

2015年にはカタログで冷蔵のスライス肉の供給がスタートし、持続可能な生産と消費を維持拡大するために必要な、週間利用点数5000点以上、利用人員率55%以上をめざしています。「使いやすくなった冷蔵スライス肉をもっと多くの仲間と食べよう」と、組合員に長年愛用されている



●豚肉の部位別の特徴

- ウデ ほどよく脂肪分を含み、色が濃く、旨みがある
- 肩ロース 脂肪がほどよく入っている
- ロース 脂肪を適度に含み、きめが細かくやわらかい
- モモ たんぱく質が多く、脂肪が少ない
- バラ 脂肪が多く、脂肪と赤身が層になっている
- ヒレ 脂肪が少なく淡泊。たんぱく質、ビタミンB1が一番多い

レシピ本も販売します♪

地域委員会の豚肉企画に参加してね!

スライス肉ではイメージしにくい「一頭買い」の考えを伝える解体学習会や料理講習会などを、各地域委員会が企画します。あなたも参加して、「ウインナークラブの豚肉を食べる仲間」になってね!

地域によって取り組み方や時期がさまざまなので、日頃から地域ニュースをチェックしてくださいね。お友だちも誘って、ぜひ参加してください。

『豚肉料理 百一選 2018年』に『豚肉料理 百一選 スライス編』を1000冊作成しました。組合員のアイデアが詰まったレシピ本をぜひ活用してください。

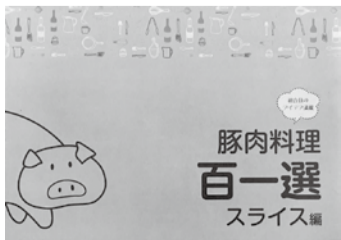


豚肉レシピ集お披露目会でおこなった解体学習会(2018年)

『豚肉料理 百一選 スライス編』

組合員から募集した豚スライス肉のレシピを収録。自分では思いつかない食材の組み合わせや、調理法のレシピが多く、日々の料理作りに役立つオリジナルレシピ本です。調理法と使用部位別の2つの目次から探せます。ぜひ活用して、いろいろな部位の豚肉料理を楽しんでください。

【お問い合わせ・購入希望】
エスコープ大阪・理事会事務局 ☎072-293-4660



全110頁フルカラー
掲載レシピ数101品
本体価格 900円(税別)

大阪市南・中河内地域
**遺伝子組み換え
 反対運動推進月間
 米澤製油(株)
 生産者交流会**
 3月1日(金)
 クレオ大阪南・調理室
 (大阪市平野区)

大阪市南・中河内地域委員
 湯浅 聡子

昨年12月の「エスコープまつり」でも熱心に『国産ブレンドなたね油』の良さを伝えてくれた「米澤製油(株)」の安田仁さんを招いて、交流会を開催しました。



一般的な食用油では、遺伝子組み換え(以下、GM)原料を使用していないでも食品表示の義務はありません。また、搾油工程で加工助剤として薬品(ノルマルヘキサノール食油抽出溶剤)を使用しても最終的に製品には残らないため食品添加物としての表示義務はありません。米澤製油では「安心・安全な油を消費者に届きたい」という強い思いから、原料のなたねは遺伝子組み換えしていない(以下、NON-GM)ものにこだわり、製造工程では薬品を使わないことを貫いています。

米澤製油の原料なたねの産地であるオーストラリアでは、近年GMなたねの作付けが広がっており、原料

の調達に大変苦労しているそうです。しかし、安全な原料を手に入れるだけに留まらず、GMに反対する気持ちを込め、あえてGM栽培が盛んな地域で栽培されたNON-GMなたねを輸入しています。私たちはGMについて正しく理解し、「GM作物は食べたくない」とNON-GM食品を選ん で食べるこそが、GM反対の意思を示す大きな一歩です。

当日は、参加者の目の前でなたねを手動の搾油機にかける実演があり、一番搾りのなたね油を味わいました。生産者のお話の後に、なたね油の栄養面での利点を伝え、なたね油を使った献立でおいしいランチを楽しみました。生産者の想いと、GMの現状を理解することができたひととき。ていねいに作られた消費材をこの先も大切に利用していきたいです。

遺伝子組み換えしていない
 なたねにこだわる熱い思い

河内長野・大阪狭山地域
**遺伝子組み換え
 反対運動推進月間
 (株)丸本
 生産者交流会**
 2月25日(月)
 河内長野市立小山田コミュニティセンター・地域福祉センター(あやたホール)
 (河内長野市小山田町)

河内長野・大阪狭山地域理事
 糸川 江里子



GMや、近頃新聞やテレビで取り上げられている「ゲノム編集」について、組合員同士で学び合う場を持ちたいと考え、生産者交流会を企画しました。

環境委員会が作成した紙芝居を使い、GMやゲノム編集の技術や危険性

「丹精國鶏」を食べ、GM反対運動を進めよう!

GM反対運動を組合員に知ってもらうために、「新生酪農(株)」から生産者の岩瀬さんを招いて、交流会とGM学習会を開催しました。

GMは生産性を上げるために開発され、安全性や、人や環境への影響はいまだわからな ことが多くあります。生活クラブではGM作物・食品は取り扱わないことを基本としています。

交流会では、地域委員会から紙芝居を使ってGMの問題点を伝えました。GM作物を栽培しても農家は農作業がラクにならず、収穫量は増えず、種子と農薬をセットで売る種子会社だけが富を得ていることや、GM作物は健康への不安があること、「ゲノム編集技術」で遺伝子を操作して魚の体を大きくしたり、米の収穫量を増やす研究がおこなわれていることなどを説明しました。

泉州地域
**遺伝子組み換え
 反対運動推進月間
 新生酪農(株)
 生産者交流会**
 3月1日(金)
 岸和田市立浪切ホール
 (岸和田市港緑町)

泉州地域理事 宮田 恭子

交流会では、地域委員会から紙芝居を使ってGMの問題点を伝えました。GM作物を栽培しても農家は農作業がラクにならず、収穫量は増えず、種子と農薬をセットで売る種子会社だけが富を得ていることや、GM作物は健康への不安があること、「ゲノム編集技術」で遺伝子を操作して魚の体を大きくしたり、米の収穫量を増やす研究がおこなわれていることなどを説明しました。



新生酪農では、乳牛の飼料のトウモロコシと大豆はNON-GMを使用していることですが、生活クラブとして「NON-GM作物が必要だ」という意思表示をし、アメリカで栽培されるNON-GMトウモロコシを5年先まで確保する取り組みをおこなっています。

生乳の風味がきたアイスには
 安心とこだわりがありました

「日本はもつと第一次産業を大切にしよう」という岩瀬さんの言葉が心に残りました。国内の酪農家が減り、牛乳が不足する中で、提携生産者がこれからもNON-GM作物を使って生産を維持できるように、消費材の利用を広げていきたいと思えます。

活動の必要性を改めて感じました。続いて「(株)丸本」の神谷さんから、「丹精國鶏」はNON-GM飼料を食べ、風通しや日当たりの良い開放鶏舎で育っていることや、飼料の調達について話していただきました。地域委員会からは、飼料調達のために、アメリカの飼料生産者を組合員が訪問し、「NON-GMトウモロコシを消費し続ける」意思を伝え、運動の連帯を深めていることを伝えました。私たちが食べている「丹精國鶏」が健康で育った鶏であることや、GM反対運動につな

や魚類の安全性、「消費者への知らされ方」、「自然界に及ぼす可能性のある影響」などに驚きの声がありました。これからも自分たちで学び、伝えてい

がっていることを参加者にもしっかりと伝えることができました。交流会では組合員も参加し、丸鶏の解体を体験しました。解体した鶏肉は、シンプルな味付けで部位別に試食し、「ビオサポーター」の地域委員からは、部位別の栄養価や「部位バランスを考えた食べ方」の大切さについて伝えました。参加者からは、「若い世代の組合員にもこの活動を伝えたい」との言葉があり、共に活動をすすめる思いも共有することができました。私たちが利用できる活動をみんなで広げていきたいと思います!



京嶋 孝之
 (35歳)
 エスコープ大阪
 在籍年数13年1ヵ月
 [理事会事務局]



私の原点に立ち返る

入協2年目で生協の「せ」の字も理解できていない頃に、「生豚スライスセット」の利用推進のために豚肉レシピを掲載した「男豚」という担当者にニュースを配っていたことを本紙に取り上げていただいたことから2度目の登場です。当時は、デビューしたスライスセットの推進に燃えていて、

仕事を終えて家に帰れば試作や写真撮影、レシピ本を読み漁ることに明け暮れていました。連載していたレシピは後々冊子にし、レシピ本作りの大変さも経験しました。スライスセットの推進は、初めて自分で考え取り組んだ私の仕事の原点です。

配達の現場から転々とし、現在は理事会事務局で総代会や理事会の運営、組合員活動の事務局(広報)本紙の編集などの業務に携わっています。難しい言葉や考え方の前に悩むことも多くなりました。「あの頃のように素直に、あの頃の自分以上にできているのか」とふと思い返し原点に立ち返ります。まだまだですね。

写真は12年前の私。この写真から今の私は想像できません。

エスコープ大阪では活動委員会の改編に伴い、2006年度から組合員、市民の活動を支援する「サークル活動支援規程」を定めています。班配連では組合員同士の接点や交流の場が多くありました。個人配連が大半となった現在ではそのような機会が少なくなっています。組合員間の話し合いの場を豊富にし、気づき合いの場を作ることを目的に、サークル活動を支援しています。



「サークル活動はじめませんか?」

特典があります。現在、「リメイクサークル」「はっちく」「りんごの会」「たまり場」「シユタイナーに学ぶが市民グループエリカ」「ナチュラルライフクラブ」「援農隊S」「コットン」身体に優しい薬膳の9団体へ支援しています。

具体的には、サークルごとに半年6千円の活動費を支給し、活動場所として本部会議室を無料で貸し出すほか、広報についてなど

各々の関心ごとをテーマに集まった自由度の高い自主活動として位置付け、組合員同士の接点を作ることを目的として、5人以上(基準)の組合員で登録し、4分の3以上が組合員であれば組合員以外の方も参加できます。結成後は、基準以上の人数で活動を継続している場合は年間最大50団体の範囲内で半年ごとに支援の更新が可能です。その他、規程に定めがあります。詳しくは本部(理事会事務局)TEL072-129314660へお問い合わせください。



第10回 理事会報告 <3月6日>

【1月度決算報告】

- 供給高 1億9,879万円(前年同月比100.5%)
- 組合員数 19,577名(前月比-29)
- 一人あたりの出資金 79,384円

【2月の放射能検査結果】

2月は連合消費材742検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①「(株)ウイナークラブ」の役員(取締役及び監査役)候補者の選出について
- ②「大白川小水力発電所」への出資・融資

【協議事項】

- ①役員選出の状況について
- ②常務理事会・理事会議事録作成の手順について
- ③2019年度予算とそれに伴う方針案の整理
- ④6月「生活クラブでんき」推進月間の目標の決定と取り組み内容の提案
- ⑤「生活クラブでんき」キャンペーングッズの購入
- ⑥2019年度組織体制(4月～6月)について
- ⑦2019年度「まつり」の進め方について
- ⑧2019年リフレッシュツアーと甲状腺検査活動の実施
- ⑨実エンドウの収穫手伝いについて

【報告承認事項】

- ①「ゲノム編集技術を利用して得られた食品等の食品衛生法上の取扱い(案)」に対するエスコープ大阪の意見提出
- ②第9回理事会議事録の承認について

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基盤づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

今回は、中期計画の実行方針である「人づくりとつながりをさらにすすめていきます」の中の「エスコープ大阪(生活クラブ)グループを充実・拡充していきます」という方針についてお伝えします。



エスコープ大阪 第6次中期計画

地域の団体と連携連帯し、共に運動、事業の展開を



木製のキッチンセットで遊ぶ子どもたち

NPO法人「ふらっとスペース金剛」が「kotona」を開所

本来、子育ては母親だけが担うものではなく、地域の中でおくさんの人と関わりながらおこなわれるものです。しかし、核家族化がすすむ現在、孤立する子育て世代が増えています。そんな中、組合員の有志などによって2003年に子育て支援団体「ふらっとスペース金剛」(富田林市)が誕生。2004年にNPO法人となり、子育て支援事業を開始されました。そして、「母も子も尊重する支援を、さらにいいいにやっていきたい」と2018年4月に家庭的保育事業

木製のキッチンセットで遊ぶ子どもたち

大阪の「子育てひろば」で木のおもちゃを使い、木育をすすめています。

業所「Kotona」を新たに開所されました。「Kotona」では管理栄養士が月ごとに献立を作成し、エスコープ大阪の消費材を使用した手づくりの食事が毎日提供されています。

エスコープ大阪から、開所祝いとして「酒井産業(株)」の木製のおもちゃのキッチンセットを寄贈しました。職員が大きな段ボール箱を抱えて「kotona」に入っていくと子どもたちはワクワクした表情に。段ボール箱からキッチンセットを出すとさっそく遊び始めました。料理を作っている…と思ったら、ブロックを転がして遊んでいました。子どもの発想は豊かで、おもしろいです。日頃から木を身近に使うことで、人や森、木との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育てることができそうです。エスコープ大阪の「子育てひろば」でも木のおもちゃを使い、木育をすすめています。

「Kotona」の子どもたちにもたくさん木に触れる機会を作ってもらいたいと思います。

子どもたちの未来を考え、共に

これまで、エスコープ大阪の会議や企画に参加する組合員の子どもたちの託児を、ふらっとスペース金剛に依頼したり、南河内地域委員会が「ふらっとまつり」に参加するなど、関係性を築いてきました。エスコープ大阪が子育てひろばを考える上でも、ふらっとスペース金剛が南河内内で展開している親と子に寄り添った子育て支援を参考にしていきたい。このような地域にある同じ目的を持つ団体と連帯し、それぞれの長を活かし、誰もが自分らしく暮らし続けることのできる街づくりをすすめていきます。

福祉担当常務理事 吉田正美



エコポイント制度 3月度報告

加入者数 1,293名

給付状況

組合員活動を支えるためのケア	1件
組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア	1件
加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
加入者本人の産前産後のケア	0件
長期に留守をする時のケア	0件
リフレッシュのためのケア	0件
儀式・行事に伴うケア	0件
高齢の加入者をサポートするケア	6件



エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
5月15日(水) 10～12時	大阪狭山市立公民館 (河内長野・大阪狭山地域)
5月21日(火) 10～12時	さつき野東集会所(南河内地域)
5月28日(火) 10～12時	和泉市コミュニティーセンター (泉州地域)

*開催時間内であればいつ来ても、帰ってもOK
*組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
*お茶代100円(大人のみ)をいただきます

編集後記

映画「Workers 被災地に起つ」を見ました。東日本大震災の被災地にて、地域の中で、持続可能な社会の仕組みを、ワーカースコープ(協同労働の協同組合)という働き方でつくろうとする取り組みが紹介されています。エスコープ大阪では1994年より、生協活動の中から誕生したワーカース・コレクティブという共同で出資・労働・経営する働き方を支援しています。地域でのニーズも時代とともに変遷していると思います。中期計画の中で新たなワーカースが誕生するような地域活動をすすめていきたいと思えます。(K)

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

194号表紙「あらたな局面を迎える遺伝子操作による食品改造」を読んで

紙面モニター Aさん

先日参加した「タイハイ(株)」の生産者交流会で、遺伝子操作された食べ物を摂取したラットの実験報告を地域委員会の紙芝居で見せていただきました。消費者に向けてもっと広く情報を提供してほしいと、とても感じました。また、ゲノム編集が、経済重視の風潮の波に乗って、世の中に水面下から浸透するのを反対しなければならぬと切に思いました。

194号2面「知らないうちに食卓にのぼるゲノム編集食品」を読んで

紙面モニター Bさん

遺伝子組み換え作物は、エスコープ大阪に加入する前から知っていましたが、「不使用と書いているのであれば怪しいけど信じるしかない」と、市販の豆腐などを買っていました。ゲノム編集は、医療の分野で倫理面の問題などで報道されていたかと記憶するぐらいでした。ゲノム編集食品＝人にとって好都合な部分を編集して作り上げる不自然なもの。「ノックアウト」が野放しにならないように、食べものに関しても、もっと世の中に知らせるべきです。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはXで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
196号(2019.4.22)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/